ヒヤシンス

ヒヤシンス

ユリ科（クサスギカズラ科）
原産地：地中海東部沿岸

ヒヤシンスの名は、ギリシャ神話に出てくる美少年「ヒュアキントス」に由来しているといわれています。
ヨーロッパでは古くから栽培され、日本には19世紀半ばに渡来したといわれています。

どんな花のフレグランスオイルもたくさんの花や葉から、少ししか抽出できません。その中でもヒヤシンスは特に抽出が難しいため、ヒヤシンスのフレグランスオイルはあまり出回りません。また人工的にこの香りをつくることも難しいそうです。みずみずしい青葉のような香りの中に、濃厚な甘さを感じられるヒヤシンスの香り。季節限定の生花だから楽しめる、特別な香りです。

茎の根元の白い部分は球根の一部です

お届けしているヒヤシンスには、茎の根元に白くかたまりがあります。これは球根の一部。
お届けしているヒヤシンスはオランダ産です。生花は、日本へ輸入する際に砂をしっかり落とさないと植物検疫を通らないため、球根の中心部を残してカットしています。
球根には、開花のための栄養分があります。そのため、飾る時はなるべくその白い球根の部分を切り取らないようにしましょう。

201501

■お花が届いたら…

1．切り口についているゼリー状の保水剤を洗い流します。

2．切り口を1cmほど切ります。
※茎の根元の白い部分は球根の一部です。この部分には開花のための栄養分があります。なるべくこの球根の部分は切り取らないようにきりましょう。（切ると開花しないものではありません。）

3．水500mlに、同封の花の活力剤1袋を薄めた水に花をいけます。
※水を入れる前に、花器の中をよく洗いましょう。
※活力剤を使用することにより、水中の雑菌の繁殖を防ぎ、栄養を与えてきれいに開花しやすくなります。
※活力剤を薄めた水の余りは、冷蔵庫で保管していただくと、約1週間お使いいただけます。飲料用とお間違えないようご注意ください。
※活力剤を薄めた水がなくなった場合は、水道水で問題ありません。

■ヒヤシンスを長く楽しむポイント

・直射日光や冷暖房の風の当たらない場所に飾る。
涼しい場所の方が、葉や花からの水分の蒸散が少なくなり、長く楽しめます。

・きれいな水にいける。
長い時間水をかえないと、水の中の雑菌が増え、お花のもちを悪くします。
水をかえる際に、花器や茎をよく洗うことも大切です。切り口を1cmほど切ってからきれいな水にもどします。

・水の量は少なめに。
茎が太く柔らかい球根系の植物は、たっぷりの水にいけていると、茎の表面が水に溶け出しやすくなり、水を汚す原因となります。水は少なめにして、こまめに水をかえるとよいです。

株式会社良品計画　www.muji.net
お客様室電話　0120-14-6404
平日10:00～21:00/土・日・祝日10:00～18:00
（年末年始を除く）